令和５年度　厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書(非専門医連携対策)

肝疾患診療連携拠点病院における肝 Co 配置状況およびその活動内容

研究分担者：瀬戸山　博子　　熊本大学生命科学研究部　　消化器内科

研究要旨：肝炎医療コーディネーター（肝 Co）は自治体や肝疾患診療連携拠点病院（拠点病院）により養成され、肝炎対策のさまざまな場面で活躍することが期待されている。我々は 2019 年度、2021 年度に肝 Co 活動の現状について調査を行い、2019 年度調査（第 1 回）では肝 Co の活動状況には施設によってばらつきがあること、2021 年調査（第 2 回）では全体の実働率が 2019 年度の 84.2%から 85.8%と微増していることを明らかにした。経年的な推移を評価するために 2023 年度に第 3 回調査を実施し、拠点病院 27 施設より回答を得た。過去の調査と比較して非専門診療科への肝 Co 配置が増加していた（2019 年度：2 人/17 施設→2021 年度 7 人/21 施設→2023 年度 42 人 27 施設）。また現時点では厚生労働省健康局長通知（健発 0425 第 4 号）に記載がない独自の Co 活動も行われていることが明らかになった。今後、これらの好事例を水平展開し、肝 Co の活動の場が広がることが期待される。

A. 研究目的

国が実施する肝炎患者等支援対策事業において、 全国で養成・配置が進められている肝炎医療コーディネーター(肝 Co)には、正しい知識の普及啓発、肝炎ウイルス検査の受検促進、キャリアに対する適切な受診・受療勧奨、肝炎患者やその家族からの相談に対する助言など、様々な役割が期待されている。2019 年度に行った第 1 回調査では、肝疾患診療連携拠点病院（拠点病院）のうち 17 施設における肝 Co の配置状況を調査した。現職の肝 Co 数は全体で 480 名であり実働率は 78%であったが、施設により 7.9～100%とばらつきがあった[榎本ら. 肝臓 2021;62:96-98]。2021 年度に行った第 2 回調査では、新たに 4 施設を加え、肝 Co の配置や活動状況について調査した。2020 年以降 COVID-19 の蔓延により、肝 Co の養成・配置や活動も制約されることが懸念されていたが、肝 Co の活動は維持できていると回答する施設が多かった。

今回我々はさらに 6 施設を加え、肝 Co の配置や活動状況の経年推移を評価するとともに、肝 Co の具体的な活動内容を明らかにするため、第 3 回調査を実施した。

B. 研究方法

拠点病院のうち 27 施設に対して第 3 回アンケート調査を行った。調査項目は第 1,2 回に引き続き、勤務している肝 Co の現職数、実働数、職種、配属部署、活動内容とし、回答は 2023 年度実績に基づくものとした。また肝 Co の活動内容については具体的な情報を得ることを目的として、自由記載により回答を得た。肝炎検査は手術前や入院時スクリーニングとして非肝臓専門の診療科でも広く行われており、特に手術症例数の多い眼科では肝炎ウイルス陽性者も多いことが推測される。そのため配属部署は肝臓内科、それ以外の内科、外科および眼科について調査した。実働の定義は、厚生労働省健康局長通知「肝炎医療コーディネーターの養成及び活用について（健発 0425 第 4 号)」に示されている肝 Co の基本的な役割を含む何らかの活動を実施していることとした。

C. 研究結果

全 27 拠点病院で肝 Co は合計 1485 名が養成され、現職数は 1085 名（73.1%）であった。現職肝 Co 数は 12～108 名と施設によっ

てばらつきがあった。実働率は全体で88.6%であり、14 施設が 100%と回答したが、33.3%と回答する施設もあった（図 1）。

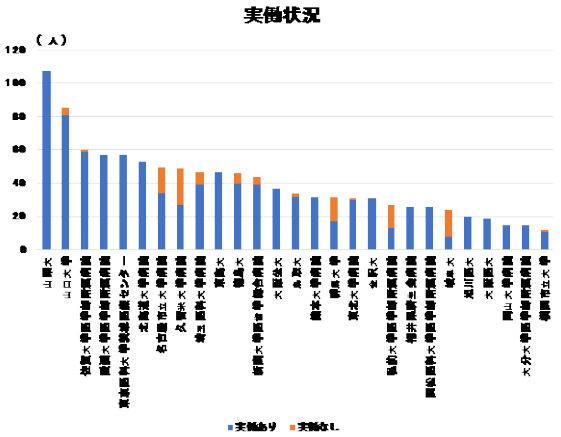

図 1:肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーター現職数と実働状況

第 1・2 回調査にも参加した 17 拠点病院において、全体の実働率（中央値）は 94.1%で過去調査より増加していた(第1回81.9%、第 2 回 81.4%)。実働率が低下した 3 施設のうち、岐阜大学は調査の回数を追うごとに低下（57.1%→44.4%→33.3%）していた。増加した 6 施設のうち、新潟大学では＋56.9%（31.7%→88.6%）と最も増加していた。

実働する肝 Co の職種は、過去調査と同様に看護師が最も多く、臨床検査技師・薬剤師・管理栄養士の順に多かった(図 2)。またそれぞれの職種が占める割合には特に変化を認めなかった。看護師である肝 Co の非専門診療科への配置は 12.3%と過去調査より増加していた(2019 年度:2 人/17 施設→2021 年度 7 人/21 施設→2023 年度 42 人 27 施設)。またその配置診療科は眼科、整形外科、産婦人科の順に多かった（図 3）。

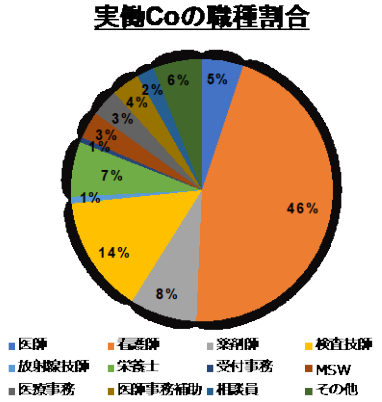

図 2: 実働する肝炎医療コーディネーターの職種

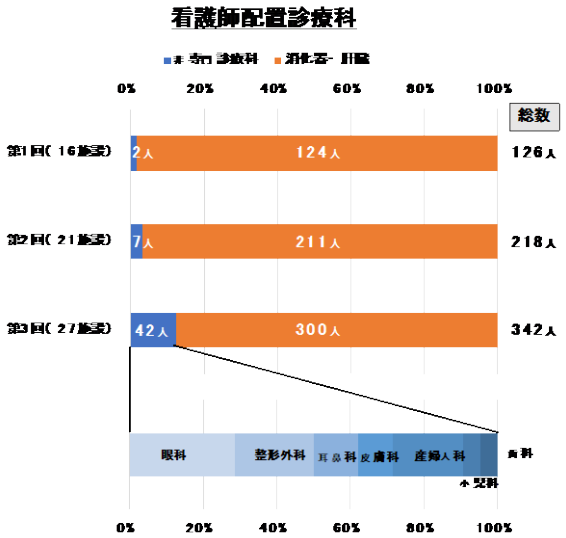

図 3: 肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーター（看護師）の配置診療科

肝 Co の活動内容については自由記載欄に多数の回答が寄せられた。厚生労働省健康局長通知（健発 0425 第 4 号）に記載がない Co 活動も多く実施されており、具体的には肝炎に関する知識普及・啓発資材作成、陽性者拾い上げ、肝 Co 養成・スキルアップ、HBV 再活性化予防、その他に分類された。

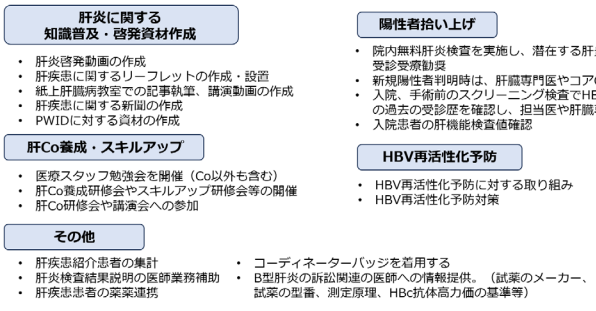

図 4:現時点では通知に記載がない Co 活動

D. 考察

第 2 報では、COVID-19 の蔓延による肝 Co の活動性低下が懸念されたが、ほとんどの拠点病院では維持あるいは増加していた。肝炎情報センターが開催する肝疾患相談・支援センター関係者向け研修会や日本肝臓学会が開催する学術集会のメディカルスタッフセッション等での報告では、多くの拠点病院がウェブ会議システムやマスメディア、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）等を活用して非接触型の啓発イベントや研修会・情報共有を行なっていることが報告されている．また、人数制限やいわゆる 3 密の回避などの感染対策に十分配慮しながら従来の活動を展開している施設もある。報告された活動内容は、術前検査等で判明した肝炎ウイルス陽性者を非専門の診療科から肝臓専門医への受診につなげる臨床検査技師や看護師の取り組みや、肝臓病教室や料理教室を開催する理学療法士・管理栄養士・薬剤師・医療ソーシャルワーカーなどの取り組みなどであり、全国の拠点病院で多くの職種が互いに連携をとって活躍していることが明らかとなっている。こうした新たな活動に加えて、COVID-19 の感染対策に配慮したインターネットやマスメディアを活用した非接触型の新しい活動方法が広がったことから、コロナ禍においても最低限の活動は維持できていると回答する施設が多かった。

また、眼科で肝 Co が実働していると回答する施設が増えており、実働には至っていないものの眼科や歯科に配置していると回答する施設もあったことから、非専門の診療科への肝 Co 活動の展開が進んできていることが推察された。眼科に肝 Co を配置することで、肝臓内科への紹介率が大きく向上したとする報告もあり[5]、これらのメリットや配置・活動に至るノウハウを全国で共有することで、今後さらに多くの施設で肝 Co の活躍が促進されることが望ましい。

第 3 報では多くの施設で、現時点では厚生労働省健康局長通知（健発 0425 第 4 号）に記載がない独自の Co 活動を行っていることが明らかになった。今後、これらの好事例を通知に加えるなどして水平展開が進めば、全国の肝 Co にさらに活動の場が広がることが期待される。

E. 結論

2021 年度の拠点病院 72 施設のうち、21 施設の肝 Co の現状を調査したところ、合計 951 人の肝 Co が養成されていた。前回調査にも参加した 17 施設では、全体の実働率は 2019 年度の 84.2%から 85.8%と微増していた．COVID-19 の流行にもかかわらず、肝 Co の活動は維持できていると回答する施設が多かった。

F. 政策提言および実務活動

＜政策提言＞

なし

＜研究活動に関連した実務活動＞

研究班活動に加えて、熊本大学病院肝疾患センター副センター長として、熊本県健康福祉部健康危機管理課(肝炎・肝がん対策担当)と連携し、肝炎に関する総合的な施策の推進活動に携わっている。

G. 研究発表

1. 発表論文

1. 磯田広史、 榎本大、 高橋宏和、 大野高嗣、井上泰輔、池上正、井出達也、

徳本良雄、小川浩司、瀬戸山博子、内田義人、 橋本まさみ、 廣田健一、 柿崎暁、 立木佐知子、 井上貴子、 遠藤美月、島上哲朗、荒生祥尚、井上淳、末次淳、 永田賢治、 是永匡紹　肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーターの現状(第 2 報)　肝臓 64 巻 10 号 Page510-513(2023.10)

2. 瀬戸山 博子，野村 真希，矢田 ともみ，吉丸 洋子，楢原 哲史，稲田 浩気，田中 健太郎，蔵野 宗太郎，徳永 尭之，飯尾 悦子，長岡 克弥，渡邊 丈久，江口有 一郎，田中 靖人，肝炎医療コーディネーター活動継続における肝疾患診療連携拠点病院の役割，肝臓 64 巻 11 号 Page583-586(2023.11)
3. 廣田健一、 井上貴子、 小川浩司、 荒生祥尚、 遠藤美月、 池上正、 戸島洋貴、末次淳、柿崎暁、瀬戸山博子、榎本大、是永匡紹　肝炎ウイルス陽性者対策が急がれる非肝臓専門科は? 肝臓 64 巻 11 号 Page587-589(2023.11)
4. 井上泰輔、 井出達也、 内田義人、 小川浩司、井上貴子、末次淳、池上正、瀬戸山博子、 井上淳、 柿崎暁、 榎本大、立木佐知子、 遠藤美月、 永田賢治、 是永匡紹　拠点病院以外の肝疾患専門医療機関における院内肝炎ウイルス陽性者対策調査　肝臓 64 巻 12 号 Page649-652 (2023.12)

2. 学会発表

1. 肝疾患専門医療機関での肝炎ウイルス陽性者拾い上げ、肝がん・重度肝硬変医療費助成申請における多職種連携の在り方　瀬戸山博子、立山雅邦、田中靖人　肝臓 64 巻 Suppl.1 Page A225(2023.04)
2. Nationwide survey of the impact of COVID-19 on the clinical practice and care of patients with liver disease in Japan. Setoyama H, Oza N, Shimakami T, Tanaka J, Tanaka Y, Kanto T Hepatology 2023;78 suppl.1 S1716 (2023.11)
3. 代謝異常にともなう脂肪肝に関する啓発ツールと肝臓専門医受診システムとの連動によるハイリスク患者受診促進への取り組み 瀬戸山博子、渡邊丈久、吉丸洋子、長岡克弥、田中靖人 第122回日本消化器病学会九州支部例会プログラム･抄録集 Page90(2023.11)
4. 新型コロナウイルス感染拡大が肝疾患コーディネーターの活動意欲に与えた影響 杉桜子、瀬戸山博子、畠山智美、怡土真理子、佐野美加子、松浦由沙、野村真希、吉丸洋子、田中靖人 第122回日本消化器病学会九州支部例会プログラム･抄録集 Page 74(2023.11)
5. 薬局薬剤師の肝炎医療コーディネーターとしての役割 寺元栄一、瀬戸山博子、野村真希、吉丸洋子、田中靖人 第122回日本消化器病学会九州支部例会プログラム･抄録集 Page74(2023.11)

3. その他

啓発資材

なし

啓発活動

1. 日本肝臓学会主催2023年度市民公開講座講師（2023年7月30日）
   於：熊本県玉名市
2. 熊本県肝疾患コーディネーター研修会パネルディスカッション司会（2023年9月17日）
   於：熊本県熊本市
3. 相良村親子肝臓病教室講師（2023年9月2日）於：熊本県相良村
4. 熊本県医療従事者向け講習会講師（2022年10月23日）
   於：熊本県水俣市
5. 鹿児島県肝炎医療コーディネーター養成講座講師（2023年12月3日）
   於：鹿児島県鹿児島市
6. 奈良県肝炎医療コーディネーターフォローアップ研修会講師（2023

年12月5日）於：奈良県橿原市

7. 熊本県協会けんぽ健診機関会議講師（2024年2月20日）
於：熊本県熊本市

8. 熊本市小児生活習慣病予防検診説明会講師（2024年3月23日）
於：熊本県熊本市

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし